

令和 7 年度
第 2 学年

実 直

中野区立第二中学校
令和 7 年 5 月 30 日
学年通信 9 号

努々忘れてはいけない

先日の運動会、予定通り実施することができました。その中でも、大きな怪我なく運動会を終えられたことに安堵しています。

今回のタイトル『努々忘れてはいけない』、とくに『努々』は、何と読むのでしょうか。(どど)ではありません。正解は(ゆめゆめ)と読みます。「決して 絶対に」の意味があります。これは、禁止のニュアンスを強調するとき用いるので、「努々~」のあとに続く語句は限られています。使用するには注意が必要です。ということで今回は努々忘れてはいけないことについてお話します。

毎年運動会が終わり、帰路に着くと少しホッとします。そして少し寂しい気持ちも生じます。運動会を行う時期は昼間熱くても夜になると涼しくなる天気为主です。帰り道の涼しい空気が火照った身体を冷ましなが、段々と運動会の当日の強烈な思い出は、記憶の棚に整理されていきます。その行程が私は好きです。毎年開催される運動会、この仕事をやっていると感じられている思い出は1年に1つずつ確実に増えていきます。

運動会は今年で14回目。その中には、初任の時、夜間学級で(夜間学級:様々な年齢の生徒が在籍している)自分の4倍ほどの年齢の生徒がスッと前を見据えて50mを駆ける姿や、初めてのムカデ競争で他クラスがゴールしているときに自分のクラスはまだスタートできていなかったこと、全員がマスクを着用して全員リレーだけの運動会を40分間で実施した日など、数々の思い出が詰まっています。

思い出は感情が伴うとより鮮烈に、そして鮮明に記憶に残ります。82歳の生徒の全力疾走には尊敬の感情をもちました。初めてのムカデ競争は悔しさが、マスクの着用が義務付けられハイタッチも制限されていた全員リレーには一抹の切なさがありました。

今回も運動会の一連の取り組みの中で、様々な感情が渦巻きました。その中でも、感情が揺さぶられた場面がいくつもあります。



初めての実行委員会の日、3学年そろったとき、2年生の7人は1年生のときよりも仕草や所作が洗礼されていました。二中での1年間の経験値がにじみ出ていました。中堅学年としての自覚と責任が生じ始めていたのだと思います。

台風の日を学年種目にした理由を話した木曜日、給食の時間には「どんな時でも光が射す」ことを皆さん同士で話す姿がありました。少し恥ずかしかったけど、もちろん嬉しかったです。

A組の皆さんに向けた担任からのメッセージは、こだわりが詰まっていて、表現方法・内容共に秀逸でした。二中に異動してきて4年目を迎える彼とは、ずっと同じ学年で常に驚かされます。やはり想像の先を行きます。

台風の日の実施では、青色の鉢巻の下からピンクの鉢巻が覗いている選手、練習通り完璧なルートランニングでした。特に、他の選手の下を通す時は地面すれすれを上下運動することなく走りきりました。とっても上手でした。

その選手は赤の鉢巻をおでこにあてて、私の前を全力で駆け抜けました。順位に関わらず、最後まで全力で取り組む姿勢はとても大きな称賛に値します。出せる力を出し切る大切さは全ての事柄に通じます。合わせて、そのことに対する学年全体での応援は学年が1つのチームであることを再度認識させてもらいました。

B組担任の彼は毎日日に焼けて、声を張って、常に公平性を念頭に置きながら、1つずつ確実に前に進めていました。皆さんが迷わないように、ルールの整備も徹底して行いました。皆さんが大きな怪我無く競技に取り組めたのは安全に配慮しながら運営を行ってくださったからです。もちろん、クラスを第一に思っていることは伝わりました。彼のおかげで生徒の皆さんと教員を含めた全員が素敵な時間を過ごすことができました。

全学級リレー、トップのチーム、アンカーたすきをつけて私の前を走り抜けた選手の後ろ姿、ゴールテープを切ったあとのガッツポーズは輝いていました。そのガッツポーズから嬉しさがあふれ出ていたように思います。

彼女は、C組担任として運動会当日にクラスカラーの黄色い鉢巻をまいていました。非常に熱い想いをもちつつも、生徒の主体性に任せながら見守っていました。運動会の取り組みを通していつも冷静でした。もしかしたら、時にぐっとこらえることもあるのかもかもしれませんが、それを感じさせない姿勢はとても勉強になります。

今回運動会を終えて、皆さんが持っている感情は何でしょうか。人間は1日過ごす、たくさんの感情と出会います。そのため全員が全て同じ感情をもつことはありません。その個々の感情こそ、皆さんにとっての、たった一人だけの大切な財産であり、その中には努々忘れてはいけない、いや忘れることのできない感情が存在しているはず。感情をもつことは生物界における「ヒト」の大きな特徴の一つです。これからもその特徴を自覚し、感情を大切に日々過ごしてほしいと思っています。そしてもう一つ努々忘れてはいけないことは、辛いことがあっても、どんな嵐でも太陽は必ず顔をだすということと、円陣を組み声をそろえた時点で、私たちは一つのチームとして、絆をより強くしたということです。

運動会おつかれさまでした。皆さんと一緒に運動会が迎えられて嬉しかったです。1つずつ思い出を集めながら、これからも前向きでいきましょう！

【保護者の皆さま】



先日はご多用の中、本校の運動会をご観戦いただき、誠にありがとうございました。また、準備の期間含めて様々なご理解・ご協力をいただいたことに、感謝申し上げます。校庭に立ち、第三コーナーから第四コーナーにかけての保護者の皆さまの人数と拍手、歓声を肌で感じ、有難さを感じるとともに、この中で競技・演技のできるお子様に対する羨望を感じていました。学年の中で競い合うことで生まれる競争心や向上心、勝敗が決することによって生じる嬉しさや悔しさをもつことは、今後お子様が学校生活を卒業して社会に出ていく中でかけがえのない経験になるかもしれません。時には、その感情を大切にしながら一緒に学校生活をおくっていきたいと思います。また、2年生になって相手を称える姿勢が強くなっています。私はそのことを感じて、涙が出ました。

最後に複数の保護者の方から学年通信に関するお話、ご感想をいただきました。これからの作成にあたりとても励みになります。これからも、何かの折にはお伝えいただくと幸いです。本当にありがとうございます。